

2023年（令和5年）2月

野球審判の基本

高津区少年野球連盟審判部

【はじめに】

「あの審判の誤審のせいで。。。」「今のはアウトでしょ～」など、皆さんも色々な野球を見ていて思った事が何度かあると思います。誤審かアウトだったかの真偽はともかく、審判というのは時には選手以上に周りから見られている人物であり、それだけ試合の行方を左右する重要な存在であるとも言えます。

これだけ読むと、審判をする事への躊躇が芽生えるかも知れませんが、そうではありません。自分の中で、「これが正確だ」と思える判定（「ジャッジ」とも言う）をしていれば、何も問題はありません。

そのために審判がやる事の大原則は以下の事です。

- ・ 集中し落ち着いて判断する
- ・ 大きな声でジャッジ
- ・ 同じ試合を担当する審判たちと協力し合う

これが出来れば大丈夫です。

もちろん、それをする為には、ある程度細かい事をしなくてははいけませんので、これ以降の章ではもう少し詳しく、「審判って何をやるの？」という事を解説させて頂きます。

あまり難しく考えず、「読み物」として読んでください。

【審判員とは？】

試合（ゲーム）において、球審や塁審となり、ボール（投球・送球・打球）とプレイのひとつ一つを「公平に」判断・判定しながら、そのゲームの進行をスムーズに行う人たちです。

そして、それを行う権限と責任を持っていますが、決して「エライ」ワケではありませんので、選手やベンチに対して高圧的になってはいけません。

一方で、グラウンド内では試合中に選手やチーム関係者と必要以上に会話して仲良くなるのも良くない事です。

※ただし、良いプレイへの賞賛や励ましを込めた選手への声掛けなどは

積極的に行ってください。

「進行をスムーズに」行うためには、試合中の機敏な攻守交代を促し、自らも球場内では全力で動きましょう！

<用語>

- ・ 球審＝ホームベースおよびその付近を担当
- ・ 塁審＝1 塁、2 塁、3 塁およびその付近を担当 ※詳細は後ほど。

【判断・判定を正確に・・・どうやって？】

既述の内容でもありますが、以下の事をしましょう

- ① 集中力を保ち、試合中はずっとボールとプレイから目を離さない。
特にボールに対しては Watch The Ball (ウォッチ・ザ・ボール) という言葉が使われます。
- ② バタバタしない、慌てない。
不思議なもので、落ち着いて見ていれば、早い打球も送球もしっかり見えちゃうものです。
- ③ 立ち止まってしっかり最後まで見る
走りながら、歩きながらではなく、その判定が行われるときは止まる。
- ④ 目線を高く、視野を広く
この目線でこの距離で見れば、おそらく間違いなく正しい判定が出来るだろう、という場所で見れると Good！

落ち着いて、自分の中で正確にジャッジする事が、選手・両ベンチ・球場全体への説得力を生みます

【審判って、何人でやるの？】

4 人体制（球審 x1, 塁審 x3）が多いですが、最近は少年野球では 3 人体制（球審 x1, 塁審 x2）でやるケースが増えてきております。

それぞれの細かい動き方については、「実技講習会」で解説いたします。

【実際には何を判定するの？】

言い出したらキリがないですが、基本的には以下の事をします。

- ・ 球審は (1) 投球に対する「ストライク」「ボール」の判定
(2) 打球（飛球ともいう）に対する判定（フェア、ファウル、捕球）
- ・ 塁審は (1) 打球に対する判定（フェア、ファウル、捕球）
(2) 各塁への送球に対する判定（アウト、セーフ）
(3) 塁付近でのプレイに対する判定（アウト、セーフ）

【じゃあ、自分の担当塁だけ見てればいいの？】

ところが、、、、実はそうではないのです。。。。

たとえば、球審は時には 1 塁審、時には 3 塁審に成り代わり、2 塁審は時には 1 塁審に、時には 3 塁審にも成り代わるケースなどが多く生まれます。

「なんだそれ!? 〇」ですよ。わかります。

これらは全て、「アウトカウント (1 アウト, 2 アウトなど)」「走者 (ランナー) がいる塁やその数」など、様々な条件で変わります。

その為に必要なのが、冒頭に書いた

「同じ試合を担当する審判たちと協力し合う」です。

この審判仲間たちを「Crew (クルー)」と言います。よく、飛行機の客室乗務員達の相称として使うのと同じですね。

彼らは「ブリーフィング」という事前ミーティングを搭乗前に時間を掛けて行います。目的は「各自の役割を明確化する」「と同時に、他のクルーの代わりも出来るように」情報の共有と確認を行うためです。

審判員も、おなじ事を試合前にやります。これも「実技講習会」でデモします。

ここでよく交わされる言葉がこの 3 つ

- ① 「Go Out (ゴーアウト)」: 塁審が打球を追って判定する事に専念するため、自身が居た場所を放棄する時の発声。
- ② 「Covering (カバーリング)」: その空いた場所に、成り代わり審判が行く!
- ③ 「塁を空けない」: なのに、もし行かなかつたら、そんな時に限ってそこでプレイが行われ、『げ! 審判が居ない!!!』となってしまふ。。。。

上記の③が最も避けなくてはいけない状況なので、「全員で協力する」ことが必要なんですね!

【審判って、どういう格好でやるの？】

「高津区では」という前提ですが、ある程度決められた服装・装備で行います。

<トップ（上半身）>

- ・ 審判帽（塁審は高少連帽、球審は球審専用帽）
- ・ 高少連ポロシャツ（現在は「黒」）、寒い時は黒の無地ジャンパー
- ・ サングラス着用の場合は、黒（ミラーサングラスはNG）

<ボトムス（下半身）>

- ・ チャコールグレーのスラックス（カーゴパンツ、チノパン、ジャージはNG）
- ・ 黒色のベルト（バックル部分全体が反射するようなものはNG）
- ・ 黒/紺系のソックス（白はボールと同化するのでNG。また、足の保護のためにもロングソックスがおすすめ）
- ・ 黒のアップシューズ（紐式でもテープ式でもOK）

<小道具（三種の神器）>

- ・ カウンター（インジケーターともいう）
- ・ ハケ（ブラシともいう）
- ・ ポケットサイズのメモ（表紙カバーはプラスチック製推奨）・ボールペン



【判定（ジャッジ）のやり方は？】

ここからは塁審をメインにして解説しますね。

塁審がやる判定とその発声（「Call（コール）」と言います）は主に以下のとおりです。

- ① アウト = 「He is OUT!（ヒーズアウト/ヒーザウト）」。
「彼（選手）はアウトです！」という事を意味し、塁上およびその付近でのプレイについて判定。



- ② セーフ = 「Safe!（セイフ）」
「セ〜〜フ」と伸ばさず、短くセイフ!と言うと良い



- ③ 捕球 = 「Catch!（キャッチ）」
いわゆる飛球などに対して「はい、確かに捕ってます!!」というコール。
ちなみに、例えば外野が捕ったように見えて実はポロリ!してた場合があります。その場合は、No Catch!（ノーキャッチ!）とコールします。

これらのいずれにおいても重要なのが「焦って判定しない事」「大きな声でコールする事」です。

【判定するときの姿勢と位置は？】

まずは姿勢。

<Standing (スタンディング) >

最初にする姿勢は、「Standing (スタンディング)」で、投手からの送球に対して目を切る（視線を外す）事なく、見ている姿勢です。

そして大事ななのは「打者に対して正対（まっすぐ見ている上体）」する事です。



足は凡そ肩幅と同じ。両手は体側（体のよこ）に位置し、絶えず一歩踏み出せるように重心は軽く前に。

いざ、投手が投げた！バッターが打った！内野に転がった！内野が投げる！
その時に次に必要なのはその送球と塁手の捕球、そして打者の脚のベースへの着地！このどちらが早いかを判定します。

そのため、塁審はその塁に送球が来て打者（あるいは走者）がアウトになるかセーフになるかを判定しますが、その時の姿勢で重要なのが
「Hands On Knee (ハンズオンニー)」というものです。

良い例

正面から

横から



←腰が落ちないように注意しましょう

悪い例

背中が丸くなってますね



腰が落ちて重心が後ろにありますね



そして、その送球と走者とベース全体を見るようにします。
そのため目線を下げないように気を付けましょう！

全体が見える目線



目線が落ちてしまっている例



そしていよいよコールです！アウトだと判断した場合、先ほどのハンズオン
ニーの姿勢から上体を起こし、「同時に」右ひじを真っすぐ上に上げて行き
ます。

打つな？ 投げて来たな？アウトだな？ よし、コールしよう！



そして、コールです
He's OUT!!



この時一番注意が必要なのは、

「すぐに手を下げない」

「すぐにインジケーターを見ない」

「ジェスチャーと同時に発生（コール）」です。

そして、しばらくこの姿勢をキープしておくこと、説得力が増します。

次にセーフのジャッジ。

ハンズオンニーまでは一緒です。

今度は、片手ではなく、両手を使ってジャッジですので、おなじく上体を起こすと同時に両手をカラダの前に水平に上げて、そのまま、真横に開きます

ハンズオンニーからの 上体と両手起こし からの、Safe！！



この時の注意点としては、

「両手をカラダの前でクロスさせない」「手は水平に」です。

悪い例としてはこんな感じ。

陸上のゴールテープ切る感じや、飛行機の翼になっていますね



出典：一般財団法人 日本野球協会 アマチュア野球規則委員会

次に、立ち位置です（ここでは、1 塁と 3 塁をメインに解説。2 塁詳細は実技講習にて。）

■ランナー無しのケース：

- ・ ベースから後方 3～4 m を目安に、スタンディング姿勢の状態
- ・ 1～3 塁審は全員、打者（バッター）に対して正対
- ・ 1 塁審の場合は右足の外側がファウルライン（白線）部分に触れる、3 塁審の場合は左足の外側がファイルサイン（白線）部分に触れるイメージ。

■ランナーありのケース：

- ・ ベースから後方 2～3 m を目安に、ハンズオンニー姿勢の状態。
これを、「セットポジション」とも呼びます。
投手にも同じ用語が使われますが、混同しないようにしてくださいね。
- ・ 1 塁審と 3 塁審は「投手（ピッチャー）」に対して正対し、2 塁審は打者に対して正対しながらも、顔はピッチャーに正対。
→え？？なんで？？？ 理由は、「Balk（ボーク）」という行為が投手に発生するリスクがあるからです。
ボークには色々な定義とルールがあり、ここでは詳細は割愛しますが、その内容によっては塁上の走者（ランナー）が進塁できる権利が発生し、その進み方（要は●コマ進む）が変わってくるからです。
- ・ このケースでは通常の打球判定の前にボーク発生有無の判断も必要ですので、より集中力を高める必要がありますね！

いずれの場合においても、1 塁審と 3 塁審は、打球のフェア／ファウルの判定が必要になりますので、ライン（白線）の横に位置しておきましょう

【タイム！】

試合は、いろんな条件で一時的にプレイが中断します。

例：ファウル、死球（いわゆるデッドボール）、フェンス/ネット超え、接触転倒
隣の球場から飛球がイン、ベンチから監督が申告・・・など。

その時には、審判が試合を止める必要があります。その時のコールが「タイム」です。このコールは、球場全体に対してアナウンスする必要のある重要なコールですので全員で大きな声でやりましょう。

【おまけ：用語集】

審判をやると、色々よく分からない横文字が飛び交います。

・ Off The Bag! （オフザバッグ）

→少年野球に多いですが、例として 1 塁手が捕球したつもりが、足が離れてた。。そういう場合に使います。昔、ベースは砂など入れた袋を使っていた名残です。このプレイは、他からは「死角」となる場合が多いので、塁審は 「Safe! Off the Bag!」というふうに、セーフになった理由まで言うと説得力が上がりますよね！？

・ Dropped The Ball! （ドロップザボール）

→これもあるあるで、完全捕球できずに塁手のグラブから球がポロリ・・・の時に使うコールです。

他にもたくさんありますが、基本的な解説としての座学はひとまずここまでとさせていただきます。

【最後に】

結局のところ、実際にグラウンドでどんどん審判経験をしていかないと、これだけ細かいルールのあるのも珍しい競技は分からない事だらけで当然ですので、まずは 「失敗を全く恐れる必要がなく」「みんなでカバーし合いながらやる」「選手たちと一緒に 1 プレイずつ楽しむ」事を念頭に置いていただくと幸いです。分からない事があれば、いつでも審判部にお聞きください。

以上